

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

● 米国：2022年10月12日公表ほか USDA Crop Production ●

9月の農業気象概況（2022年10月12日公表）

9月は、米国の中央部及び西部の大部分の州で気温が平年並みを上回った。カリフォルニア州、グレートベースン地域、大平原地域、太平洋沿岸北西部及びロッキー山地の大部分で9月の平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った。これと対照的に、ミシシッピー渓谷、ニューイングランド、オハイオ渓谷及び米国南西部の諸州では、9月の平均気温が平年並みをやや下回っており、テキサス州の一部でも同様であった。米国の中央部の大部分の地域では、9月の降水量が平年並みを下回り、カリフォルニア州、フロリダ州、米国北東部、ロッキー山地及び米国南西部の多くの地域では9月の降水量が平年並みを上回った。ハリケーン・イアンの影響により、米国中央部及びフロリダ州南部の大部分の地域で、9月中の降水量が305mm以上となった。

乾燥インゲンマメ

2022作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、114万8,000tの見込みであり、この値は前回の予測に比べて3%の増加、2021作物年度の生産量に比べて11%の増加である。作付面積は、50万6,000haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて3%の減少、2021作物年度の作付面積に比べて10%の減少である。収穫面積は、49万haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて3%の減少、2021作物年度の収穫面積に比べて10%の減少である。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は、2,346kg/haの見込みであり、この値は前回の予測に比べて130kg/haの増加であり、2021作物年度に比べて441kg/haの増加となっている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し(2021作物年度及び2022作物年度)

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022
ヒヨコマメ	149,130	145,530	142,050	141,800	0.91	1.26	129,770	178,400
乾燥食用インゲンマメ	564,140	506,270	540,500	488,580	1.91	2.35	1,030,610	1,147,270
乾燥食用エンドウ	395,380	369,890	337,510	349,250	1.15	1.44	387,780	501,220
レンズマメ	286,520	271,140	222,170	256,170	0.68	0.86	150,910	220,040

生産量: 米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2022年10月12日付で公表。
 メートル法の単位による米国の2021作物年度及び2022作物年度(集計継続中)の作付面積、収穫面積、単収及び生産量。
 データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定は、2022作物年度全期間のものである。

表2 米国の乾燥インゲンマメの収穫面積、単収及び生産量
(2021作物年度及び2022作物年度)

州名	収穫面積 (ha)		単収 1/(t/ha)		生産量 1/(t)	
	2021	2022	2021	2022	2021	2022
カリフォルニア	6,352	4,775	6.5	6.3	41,557	30,093
コロラド	12,949	13,759	5.1	5.4	66,359	74,185
アイダホ	23,067	18,210	7.1	6.3	163,803	114,089
ミシガン	84,174	86,198	6.6	6.5	552,368	560,501
ミネソタ	94,696	83,365	5.3	6.2	506,622	517,755
ネブラスカ	46,134	43,301	6.6	6.4	306,442	278,333
ノースダコタ	250,905	222,577	2.8	4.9	705,148	1,097,350
ワシントン	15,985	10,319	7.5	7.1	120,592	73,083
ワイオミング	6,353	6,070	6.6	6.5	41,667	39,683
米国全体	540,498	488,576	4.6	5.7	2,504,682	2,788,075

1/精製済みの重量を基準とする。
 生産量: 米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2022年10月12日付で公表。
 米国の乾燥食用インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量: 2021作物年度及び2022作物年度(2022年10月1日現在の予測)。
 [園芸種子用のインゲンマメを除く。]

表3-1 米国の乾燥インゲンマメ等の州別及び銘柄別作付面積の推移
(2021年及び2022年8月1日現在の推定値)

銘柄及び州名	2021 (ha)	2022 (ha)	銘柄及び州名	2021 (ha)	2022 (ha)
ラージライマ			ワシントン	(D)	(D)
カリフォルニア	2,347	2,347	ワイオミング	-	-
コロラド	-	-	その他の州 1/	1,335	1,294
アイダホ	(D)	(D)	米国全体	3,035	2,306
ミシガン	(D)	(D)	ネイビー		
ミネソタ	(D)	(D)	カリフォルニア	-	-
ネブラスカ	-	-	コロラド	(D)	-
ノースダコタ	-	-	アイダホ	404	(D)
ワシントン	(D)	(D)	ミシガン	27,518	25,090
ワイオミング	-	-	ミネソタ	20,436	19,424
その他の州 1/	647	485	ネブラスカ	(D)	(D)
米国全体	2,994	2,832	ノースダコタ	30,756	22,662
ベビーライマ			ワシントン	(D)	566
カリフォルニア	1,416	1,011	ワイオミング	-	-
コロラド	-	-	その他の州 1/	485	445
アイダホ	283	(D)	米国全体	79,601	68,189
ミシガン	(D)	-	グレートノーザン		
ミネソタ	(D)	(D)	カリフォルニア	-	-
ネブラスカ	-	-	コロラド	(D)	-
ノースダコタ	-	-	アイダホ	1,497	1,011

銘柄及び州名	2021 (ha)	2022 (ha)
ミシガン	(D)	(D)
ミネソタ	(D)	-
ネブラスカ	14,771	9,712
ノースダコタ	3,804	(D)
ワシントン	485	(D)
ワイオミング	242	(D)
その他の州 1/	1,497	1,092
米国全体	22,298	11,816
スモールホホワイト		
カリフォルニア	-	-
コロラド	(D)	-
アイダホ	930	404
ミシガン	(D)	-
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	-	-
ワシントン	485	242
ワイオミング	-	-
その他の州 1/	971	202
米国全体	2,387	849
ピントー		
カリフォルニア	-	(D)
コロラド	8,093	10,117
アイダホ	8,093	6,474
ミシガン	1,011	(D)
ミネソタ	7,365	5,260
ネブラスカ	23,471	32,900
ノースダコタ	184,536	169,158
ワシントン	4,532	3,804
ワイオミング	5,463	5,827
その他の州 1/	-	485
米国全体	242,568	234,029
ライトレッドキドニー		
カリフォルニア	(D)	-
コロラド	2,347	1,497
アイダホ	768	1,011
ミシガン	3,035	2,832
ミネソタ	10,359	10,117
ネブラスカ	4,168	2,509
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	1,497	607
ワイオミング	-	(D)
その他の州 1/	1,295	1,456
米国全体	23,472	20,026
ダークレッドキドニー		
カリフォルニア	(D)	(D)
コロラド	-	-
アイダホ	1,700	809
ミシガン	1,012	607
ミネソタ	27,276	19,015
ネブラスカ	-	(D)

銘柄及び州名	2021 (ha)	2022 (ha)
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	445	405
ワイオミング	(D)	-
その他の州 1/	3,116	890
米国全体	33,548	21,725
ピンク		
カリフォルニア	(D)	-
コロラド	-	(D)
アイダホ	2,711	2,023
ミシガン	-	(D)
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	2,347	2,225
ワシントン	(D)	(D)
ワイオミング	(D)	-
その他の州 1/	2,226	3,520
米国全体	7,284	7,768
スモールレッド		
カリフォルニア	-	-
コロラド	(D)	(D)
アイダホ	1,942	2,225
ミシガン	8,094	7,282
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	6,799	5,664
ワシントン	890	647
ワイオミング	(D)	-
その他の州 1/	1,862	1,295
米国全体	19,587	17,113
克蘭ベリー		
カリフォルニア	(D)	(D)
コロラド	-	-
アイダホ	(D)	283
ミシガン	1,012	1,416
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	-	-
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	(D)	1,214
ワイオミング	-	-
その他の州 1/	4,330	2,104
米国全体	5,342	5,017
ブラック		
カリフォルニア	(D)	(D)
コロラド	(D)	202
アイダホ	1,578	1,699
ミシガン	39,659	49,762
ミネソタ	24,726	26,702
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	33,184	29,938
ワシントン	2,266	2,427
ワイオミング	324	405

銘柄及び州名	2021 (ha)	2022 (ha)
その他の州 1/	2,388	2,104
米国全体	104,126	113,239
ブラックアイ		
カリフォルニア	1,416	728
コロラド	(D)	971
アイダホ	(D)	-
ミシガン	(D)	-
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	(D)	(D)
ワイオミング	-	-
その他の州 1/	3,885	2,387
米国全体	5,301	4,086

銘柄及び州名	2021 (ha)	2022 (ha)
その他の銘柄		
カリフォルニア	445	485
コロラド	1,821	2,063
アイダホ	3,035	2,953
ミシガン	(D)	(D)
ミネソタ	(D)	(D)
ネブラスカ	(D)	(D)
ノースダコタ	(D)	(D)
ワシントン	1,538	1,052
ワイオミング	(D)	(D)
その他の州 1/	5,747	4,005
米国全体	12,586	10,559

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。
1/上記の理由で公表しないデータを含む。
米国の乾燥インゲンマメ州別及び銘柄別作付面積：2021作物年度及び2022作物年度(2022年8月1日現在の推定)。
[園芸種子用インゲンマメを除く。]

表3-2 米国のヒヨコマメの州別及び銘柄別作付面積の推移
(2021作物年度及び2022作物年度)

粒の大きさ及び州名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)	
	2021	2022	2021	2022 1/
小粒ヒヨコマメ 2/				
カリフォルニア	(D)	(D)	(D)	(D)
アイダホ	3,642	6,475	3,642	6,475
モンタナ	12,545	13,759	10,319	13,557
ノースダコタ	(D)	(D)	(D)	(D)
ワシントン	5,666	10,522	5,666	10,522
その他の州 3/	2,145	1,983	2,023	1,902
米国全体	23,998	32,739	21,651	32,456
大粒ヒヨコマメ 4/				
カリフォルニア	(D)	(D)	(D)	(D)
アイダホ	28,328	21,448	28,166	21,246
モンタナ	58,275	62,322	54,228	59,489
ノースダコタ	(D)	(D)	(D)	(D)
ワシントン	32,780	24,281	32,375	23,988
その他の州 3/	5,747	4,735	5,625	4,613
米国全体	125,129	112,786	120,394	109,346
ヒヨコマメ全銘柄				
カリフォルニア	1,295	1,457	1,295	1,457
アイダホ	31,970	27,923	31,808	27,721
モンタナ	70,820	76,081	64,547	73,046
ノースダコタ	6,596	5,261	6,354	5,059
ワシントン	38,445	34,803	38,040	34,520
米国全体	149,127	145,525	142,045	141,802

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。

1/推定。

2/小粒ヒヨコマメは、64分の20インチ (7.9mm) より小さいヒヨコマメ。

3/上記の理由で公表しないデータを含む。

4/大粒ヒヨコマメは、64分の20インチ (7.9mm) より大きいヒヨコマメ。

生産量：米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局 (NASS) から、2022年9月12日付けで公表。

米国のヒヨコマメ作付面積及び収穫面積 2021作物年度及び2022作物年度。

[以前に公表された作付面積及び収穫面積についての更新データを含む。]

本報告書は、8月に公表されたカナダ農業食料省（AAFC）の2021/22作物年度及び2022/23作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。カナダでは大部分の作物について作物年度が8月1日に始まり7月31日に終わるが、トウモロコシ及び大豆については作物年度が9月1日に始まり8月31日に終わる。強い需要に対して相対的に供給が少ないこと、ロシアのウクライナ侵攻により黒海沿岸の生産基盤が崩壊し世界の貿易パターンが混乱していること、インフレーションの進行及び世界的な経済停滞への懸念といった数々の要因により、ここに示す世界の穀物市場に関する経済の見通しは、引き続き不確実なものとなっている。

乾燥エンドウ

2021/22作物年度のカナダの乾燥エンドウ輸出量は、米国への輸出量が過去最高記録であったにも関わらず、中国への輸出量の減少及びバングラデシュとの取引がなかったことにより、190万tと2020/21作物年度の水準に比べて大幅に減少した。国内利用量は、前年度に比べて減少した。乾燥エンドウの平均価格は、2020/21作物年度に比べて急激に上昇して過去最高記録の590ドル/tとなっており、これは世界的な供給量の減少及びカナダの期末在庫量の減少によるものである。

2022/23作物年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、単収の向上により、2021/22作物年度に比べて59%増加して260万tとなる見込みである。サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の51%、アルバータ州が41%をそれぞれ占めており、残りはマニトバ州、ブリティッシュコロンビア州及びカナダ東部で生産されている。この結果として、期初在庫量が減少したにも関わらず、総供給量は大幅に増加するものと予測されている。輸出量は増加して270万tとなる見込みであり、中国、米国及びバングラデシュが引き続きカナダ産乾燥エンドウの輸出先の上位を占めている。期末在庫量は、増加すると予測されている。世界的な供給量の増加及びカナダの期末在庫量の増加により、平均価格は、2021/22作物年度に比べて急激に低下して440ドル/tになると見込まれている。

レンズマメ

2021/22作物年度のレンズマメ輸出量は、前作物年度に比べて31%減少して160万tとなる見込みである。この輸出量のうち100万tが赤色レンズマメであり、緑色レンズマメが60万tを占めている。主要な輸出市場は、トルコ、インド及びアラブ首長国連邦であった。国内総利用量は前作物年度から減少して30万t不足であった。期末在庫量は、大幅に減少して22万tとなった。カナダ産レンズマメの平均価格は、2020/21作物年度に比べて大幅に上昇して、970ドル/tとなった。第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、作物年度を通じて第1等級の赤色レンズマメの価格を325ドル/t上回った。

2022/23作物年度のレンズマメ生産量は、単収の向上により73%増加して280万tとなる見込みである。作付面積はわずかに増加したが、単収は平年並みを上回る見込みである。生産量の増加の多くは、赤色レンズマメの増加によるものである。州別にみると、サスカチュワン州が全体の84%、アルバータ州が16%を占める見込みである。生産量が大きく増加したことにより、総供給量の増加幅は、100万t近くから310万tとなる見込みである。輸出量は、増加して230万tとなると予測されている。期末在庫量は、大幅に増加して40万tとなるものと予測されている。期末在庫量の増加及び世界的な供給増加の思惑があることから、全等級のレンズマメの平均価格は、2021/22作物年度に比べて大きく低下して、750ドル/tとなる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2021/22作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ輸出量は、2020/21作物年度に比べて減少して32万7,000tとなる見込みである。EU諸国及び米国がカナダ産乾燥インゲンマメの輸出市場の上位2カ国であり、これより少ない量がアンゴラ、日本及びメキシコに輸出されている。北米全体の生産量の減少が要因となって、2021/22作物年度のカナダ産乾燥インゲンマメの価格が過去最高記録の水準を維持している。

2022/23作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は、単収が上昇したにも関わらず、作付面積が減少したことから、21%減少して30万5,000tとなると予測されている。州別にみると、マニトバ州が乾燥インゲンマメ生産量全体の40%を占めており、オンタリオ州が38%、アルバータ州が22%を占めている。期初在庫量が過去最高記録であったことから、総供給量の減少率は

5%に留まると見込まれている。輸出量は、前作物年度に比べて増加する見込みである。この結果、期末在庫量は減少する見込みである。北米での供給量が減少すると予測されていることから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は上昇して、過去最高記録の1,250ドル/tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2021/22作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、前作物年度に比べて増加して、過去最高記録に近い17万6,000tとなった。米国及びトルコの需要が高まったことが輸出量増加の要因となっている。供給量の減少及び輸出量の増加により、期末在庫量は前作物年度に比べて大幅に減少した。ヒヨコマメの平均価格は、大きく上昇して、975ドル/tとなった。

2022/23作物年度のヒヨコマメ生産量は、単収が平年並みを大幅に上回ったこと及び作付面積が増加したことにより、大幅に増加して15万7,000tとなる見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の87%を占め、アルバータ州が13%を占めている。期初在庫量が減少したことから、総供給量は9%減少して35万tとなる見込みである。輸出量は、2021/22作物年度に比べて減少すると予測されているが、供給量が減少することにより、期末在庫量は3年連続の減少となる見込みである。世界的にヒヨコマメの供給量が増加するとの思惑から、平均価格は低下して900ドル/tとなる見込みである。

表4 カナダの豆類作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2020-2021	2021-2022[f]	2022-2023[f]	2020-2021	2021-2022[f]	2022-2023[f]	2020-2021	2021-2022[f]	2022-2023[f]	2020-2021	2021-2022[f]	2022-2023[f]
作付面積(1,000ha)	1,722	1,546	1,363	1,713	1,742	1,748	185	177	120	121	75	95
収穫面積(1,000ha)	1,685	1,491	1,328	1,705	1,716	1,724	183	171	113	120	74	92
単収(t/ha)	2.73	1.51	2.7	1.68	0.94	1.61	2.68	2.26	2.7	1.79	1.04	1.71
生産量(1,000t)	4,594	2,258	3,586	2,868	1,606	2,777	490	386	305	214	76	157
輸入量(1,000t)[b]	81	29	80	110	51	75	63	75	75	41	30	45
総供給量(1,000t)	4,909	2,845	4,051	3,187	2,096	3,076	578	571	545	506	382	349
輸出量(1,000t)(b)	3,582	1,909	2,700	2,326	1,600	2,300	396	327	350	160	176	150
国内総利用量(1,000t)(c)	768	551	701	422	271	376	72	79	80	70	59	59
期末在庫量(1,000t)	559	385	650	438	224	400	110	165	115	275	147	140
在庫量/利用量(%)	13%	16%	19%	16%	12%	15%	24%	41%	27%	119%	63%	67%
平均価格(ドル/t)(d)	340	590	440	645	970	750	930	1210	1,250	640	975	900

[a] 作物年度は8月から7月まで。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格(FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

F: AAFC(カナダ農業食料省)による推定。ただし、2020/2021作物年度の作付面積、単収及び生産量はSTC(カナダ統計局)の推定。

原典: カナダ統計局(STC)及びカナダ農業食料省(AAFC)

● オーストラリア: 2022年9月6日公表 ABARES Australian crop report

概観

2022/23作物年度のオーストラリアの冬作の生産見通しは、記録史上4番目に多い5,550万tに達すると推定されている。春季の始めの時点で、冬作の作柄は非常に良好な見込みであり、平均単収は、すべての州で平年並みを上回る見込みである。土壌水分含有量が十分であり、相当な面積の圃場で冬の間、耕作を休んでいたことから、2022/23作物年度の夏作の作付面積は平年並みを大幅に上回るものと予測されている。

春季の始めの時点でのオーストラリアの冬作の作柄の見通しは、冬季全体を通じて全般的に生育条件が良好であったことから、平年並みを大きく上回る見込みである。冬季の後半の適期に十分な降水量に恵まれ、多くの地域で作物の生育が順調に進み、すべての州で平年並みを上回る単収が得られる見込みである。西オーストラリア州、南オーストラリア州及びヴィクトリア州の生産地域では、冬作における良好な生育条件に恵まれており、この点でニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州の生産地域を上回っている。

クイーンズランド州南部並びにニューサウスウェールズ州北部及び中央部

では、引き続き降水量過多な生育条件となっており、多くの生産者の中で作付けの遅れや冬作物の作付けをやり直す作業に支障が生じている。標高の低い一部の生産地域でも、作物の生育に出来不出来があり、多くの作物について引き続き浸水により生育に悪影響が生じている。これと対照的にクイーンズランド州中央部及びニューサウスウェールズ州南部の大部分の生産地域では、作柄が良好で各州の生産見通しを押し上げる要因となっている。

オーストラリア気象庁が2022年8月25日に公表した最新の3カ月間気象予測（9月から11月）によれば、オーストラリア東部の諸州及び南オーストラリア州では春季の降水量はこれまでの中間値を上回る可能性が高い。西オーストラリア州の生産地域では春季の降水量が平年並みの値と等しいか、または下回る可能性が高い。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名		2019-20	2020-21	2021-22 s	2022-23 f
ヒヨコマメ	作付面積(1,000 ha)	309	606	616	423
	生産量(1,000t)	235	876	1062	621
ソラマメ	作付面積(1,000 ha)	215	302	258	242
	生産量(1,000t)	313	680	582	463
エンドウマメ	作付面積(1,000 ha)	248	252	192	205
	生産量(1,000t)	210	399	261	269
レンズマメ	作付面積(1,000 ha)	412	501	525	576
	生産量(1,000t)	526	854	859	924
ルーピン	作付面積(1,000 ha)	665	604	497	395
	生産量(1,000t)	591	866	958	700

f：ABARESによる予測。

S：ABARESによる推定。

注：作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表6 豆類価格の推移(豪ドル/t)

作物名	2020	2021				2022	
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
国内価格：ルーピン(クィナナ調べ)	385.8	393.1	361.9	350	337.2	320.9	353.2
国内価格：ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	582.5	616.2	679.2	615.8	549.6	550.8	537.4
国内価格：エンドウマメ(メルボルン調べ)	393.5	406.5	414.8	419.6	499.9	590.4	653.5
輸出量：ヒヨコマメ b	693.2	691.7	751.5	757.4	794.3	771.4	857.3
輸出量：エンドウマメ b	515.2	481.1	493.1	259.3	503.9	633	688.4

a：単位当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、CMEグループ、国際穀物会議(International Grains Council)、Jumbuk AG、米国農務省。

表7 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ										
2020-21	338	567	36	38	214	251	10	13	8	7
2021-22 s	280	504	30	40	293	501	8	11	5	7
2022-23 f	180	252	25	35	205	320	8	9	5	6
2021-22作物 年度までの 5年間の平均	239	305	43	41	270	300	20	21	9	8
フィールドピー										
2020-21	30	48	81	148	0	0	83	139	58	64
2021-22 s	37	45	40	71	0	0	80	85	35	60
2022-23 f	45	47	40	72	0	0	85	98	35	52
2021-22作物 年度までの5 年間の平均	43	35	71	82	0	0	89	101	39	51
レンズマメ										
2020-21	12	11	261	457	0	0	220	380	8	6
2021-22 s	12	16	240	360	1	1	260	460	12	22
2022-23 f	15	16	260	411	0	0	290	479	11	19
2021-22作物 年度までの 5年間の平均	8	7	229	295	0	0	202	312	13	14
ルーピン										
2020-21	82	132	37	47	2	2	57	84	427	600
2021-22 s	68	122	38	39	1	1	40	45	350	750
2022-23 f	50	70	40	42	0	0	35	39	270	550
2021-22作物 年度までの 5年間の平均	69	70	43	40	1	1	50	58	444	616

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表8 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名		2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)
生産量	ルーピン	652	1031	714	799	591	866
	フィールドピー	205	415	317	160	210	399
	ヒヨコマメ	875	2,004	998	205	235	876
見かけ上の国内利用量 a	ルーピン	398	637	258	526	376	406
	フィールドピー	76	156	189	87	165	275
	ヒヨコマメ	1	1	1	1	1	1
輸出量	ルーピン	254	395	456	273	215	459
	フィールドピー	130	261	130	75	48	126
	ヒヨコマメ	1,145	2,293	724	371	349	879

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を差し引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を差し引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合にはゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia